

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI  
(c) 2006 Thomson Derwent. All rts. reserv.

015604778 \*\*Image available\*\*

WPI Acc No: 2003-666935/200363

XRAM Acc No: C03-182005

XRXPX Acc No: N03-532211

**Emission hydrogen processing apparatus for fuel cell in motor vehicles, changes structure of catalyst holder based on hydrogen concentration in exhaust gases**

Patent Assignee: TOYOTA JIDOSHA KK (TOYT )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2003142131	A	20030516	JP 200215128	A	20020124	200363 B

Priority Applications (No Type Date): JP 2001253247 A 20010823

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 2003142131 A 16 H01M-008/04

Abstract (Basic): JP 2003142131 A

NOVELTY - An air electrode (13) and a hydrogen pole (14) emits exhaust gases containing oxygen and hydrogen, respectively. The structure of a catalyst holder (22) changes corresponding to the distribution of hydrogen concentration in the exhaust gases.

USE - For fuel cell used in motor vehicles.

ADVANTAGE - Ensures safe processing hydrogen in the exhaust gas emitted from a fuel cell rapidly .

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows a schematic view of the emission hydrogen processing apparatus in the fuel-cell system.

air electrode (13)

hydrogen pole (14)

catalyst holder (22)

pp; 16 DwgNo 1/14

Title Terms: EMIT; HYDROGEN; PROCESS; APPARATUS; FUEL; CELL; MOTOR; VEHICLE ; CHANGE; STRUCTURE; CATALYST; HOLD; BASED; HYDROGEN; CONCENTRATE; EXHAUST; GAS

Derwent Class: E36; H06; J04; L03; X16; X21; X22

International Patent Class (Main): H01M-008/04

International Patent Class (Additional): B01D-053/86; B01J-035/04;

H01M-008/06; H01M-008/10

File Segment: CPI; EPI

?

(19)日本特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-142131

(P2003-142131A)

(43)公開日 平成15年5月16日 (2003.5.16)

(51)Int.Cl.<sup>1</sup>

H 01 M 8/04

識別記号

F I

デコード<sup>2</sup>(参考)

H 01 M 8/04

C 4 D 0 4 8

H 4 G 0 6 9

J 5 H 0 2 6

N 5 H 0 2 7

B 01 D 53/86

B 01 J 35/04

3 0 1 A

審査請求 未請求 請求項の数23 O L (全16頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願2002-15128(P2002-15128)

(22)出願日

平成14年1月24日 (2002.1.24)

(31)優先権主張番号 特願2001-253247(P2001-253247)

(32)優先日 平成13年8月23日 (2001.8.23)

(33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 000003207

トヨタ自動車株式会社

愛知県豊田市トヨタ町1番地

(72)発明者 山田 知司

愛知県西尾市下羽角町岩谷14番地 株式会

社日本自動車部品総合研究所内

(72)発明者 野々部 康宏

愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

(74)代理人 100067596

弁理士 伊藤 求馬

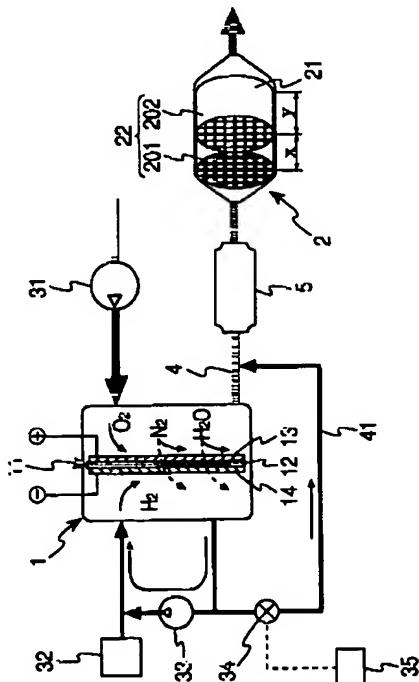
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 燃料電池の排出水素処理装置

(57)【要約】

【課題】 燃料電池から排出されるガス中の水素を、安全かつ迅速に処理することのできる排出水素処理装置を提供する。

【解決手段】 固体高分子電解質膜12を挟んで水素極13と空気極14を配置してなる燃料電池1において、水素極13から排出される水素を含む排出ガスを、空気極14から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして、排出水素処理装置2に導入し触媒燃焼させる。触媒体22は、ガス中の水素濃度が高い上流側触媒体201の通路壁211厚さを、下流側触媒体202の通路壁212より厚くして、単位体積当たりの熱容量を高めているので、過昇温が抑制され、触媒体22全体を、安全かつ効率よく触媒燃焼可能な温度に保持できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、導入されるガス中の水素濃度分布に応じて上記触媒体の構造を変更することを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項2】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位の、単位体積当たりの熱容量が、他の部位よりも高くなるように構成したことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項3】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位の、単位体積当たりの発熱量が、他の部位よりも小さくなるように構成したことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項4】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位の、単位体積当たりの触媒の担持面積が、他の部位よりも小さくなるように構成したことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項5】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位の、単位面積当たりの触媒担持量が、他の部位よりも少なくなるように構成したことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項6】 上記触媒体が、ハニカム構造の担体に触媒を担持してなり、上記導入されるガス中の水素濃度が高い部位の、上記担体の通路壁の厚さを、他の部位よりも厚くした請求項1ないし12のいずれか記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項7】 上記触媒体が、ハニカム構造の担体に触媒を担持してなり、上記導入されるガス中の水素濃度が高い部位の、上記担体の通路断面積を大きくした請求項1ないし12のいずれか記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項8】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が急激に低下した部位の、単位体積当たりの水素処理能力が、他の部位よりも大きくなるように構成したことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項9】 上記触媒体が、ハニカム構造の担体に触媒を担持してなり、上記導入されるガス中の水素濃度が急激に低下した部位の、単位面積当たりの触媒担持量が、他の部位よりも多い請求項8記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項10】 上記触媒体が、ハニカム構造の担体に触媒を担持してなり、上記導入されるガス中の水素濃度が急激に低下した部位の、単位体積当たりの触媒の担持面積が、他の部位よりも大きい請求項8記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項11】 上記触媒体をセラミック製または金属製のハニカム構造の担体を用いて構成する請求項1ないし10のいずれか記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項12】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体をガス流れの方向に複数に分割し、上流側にセラミック製の担体を用いた触媒体を配置するとともに、その下流側に金属製の担体を用いた触媒体を配置することを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項13】 上記触媒体の設置位置を、上記空気極からの排出ガスを大気への放出するための排出通路内とした請求項1ないし12のいずれか記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項14】 上記触媒体の設置位置を、上記空気極

からの排出ガスを大気への放出するための排出通路内で、かつ大気への放出口の近傍とした請求項1ないし12のいずれか記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項15】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを上記触媒体に導くための水素排出通路と、上記水素排出通路を開閉する開閉手段と、上記開閉手段の開閉を制御し、上記水素排出通路を定期的に開放して上記水素を含む排出ガスを上記触媒体に導入する制御手段を設け、上記制御手段は、上記触媒体の予熱期間中、上記開閉手段の開閉を短時間に繰り返して間欠的に上記水素を含む排出ガスを導入する制御を行うことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項16】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体に、上記水素を含む排出ガスを導入するための通路を設けるとともに、該通路を、上記触媒体の各部位が所望の発熱量となるように、上記触媒体のガス流れ方向の複数箇所に上記水素を含む排出ガスを分割して導入する構造としたことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項17】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体に、上記水素を含む排出ガスを導入するための通路を設けるとともに、該通路に、上記触媒体のガス流れ方向の複数箇所に上記水素を含む排出ガスを分割して導入する複数の分岐路を設け、かつこれら複数の分岐路を、対応する上記触媒体の各部位が所望の発熱量となるように構成したことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項18】 固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体に、上記水

素を含む排出ガスを導入するための通路を設けるとともに、該通路に、上記触媒体のガス流れ方向の複数箇所に上記水素を含む排出ガスを分割して導入する複数の分岐路を設け、かつこれら複数の分岐路を、上記触媒体のガス流れ方向の上流側に下流側よりも多くの上記水素を含む排出ガスが導入される構造としたことを特徴とする燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項19】 上記複数の分岐路の流路断面積を変更して、上記触媒体のガス流れ方向の上流側に下流側よりも多くの上記水素を含む排出ガスが導入されるようにした請求項18記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項20】 上記複数の分岐路の端部に設けられ、上記触媒体の各部位に上記水素を含む排出ガスを導入するための導入口の開口面積または数を変更して、上記触媒体のガス流れ方向の上流側に下流側よりも多くの上記水素を含む排出ガスが導入されるようにした請求項18記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項21】 上記複数の分岐路への上記水素を含む排出ガスの流入を制御する流路切替手段を設け、燃料電池の発電時には、上記触媒体のガス流れ方向の上流側に、上記水素を含む排出ガスのほぼ全量が導入され、発電停止時または起動時には、上記触媒体のガス流れ方向の下流側にも、上記水素を含む排出ガスが導入されるように、流路切替を行う請求項18記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項22】 上記触媒体の、ガス流れ方向の前面に、発泡金属よりなる気液分離部材を設けた請求項1ないし21のいずれか記載の燃料電池の排出水素処理装置。

【請求項23】 上記気液分離部材のガス流れ方向の前面に、凝縮水が存在しやすい部位を覆う遮蔽部材を設けた請求項22記載の燃料電池の排出水素処理装置。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

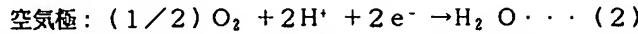
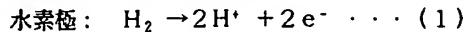
【発明の属する技術分野】 本発明は、家庭用あるいは自動車用発電機等に好適に用いられ、水素と酸素の化合反応を利用して電気を取り出す燃料電池から排出される水素を処理するための水素処理装置に関する。

##### 【0002】

【従来の技術】 近年の環境汚染や地球温暖化といった問題に対応するために、低公害の代替エネルギー車として、電気自動車が注目されている。例えば、蓄電池を搭載した電気自動車が既に実用化の段階に入っているが、蓄電池式車両は、電池の蓄電能力との関係で、走行距離が比較的短く、また、充電時間が長い等の問題があり、汎用化の妨げとなっている。このため、これら問題を解消し得る電気自動車として、燃料電池式車両の開発が急務となっている。

【0003】 燃料電池は、一般に、高分子膜を挟んで水素極と空気極を配置した単位セルを有し、水素極に水素

を含む燃料ガスを、空気極に空気を供給して発電を行うものである。この時、両極では、それぞれ下記式



【0004】ところが、燃料電池を車両に搭載する場合、つまり移動式燃料電池では、設置式燃料電池においてさほど問題とならなかったことが大きな問題となる場合がある。その1つに、純水素を搭載する燃料電池から排出される水素の処理が挙げられる。これは、燃料電池で発電する際に発生する水や、空気極で使用する空気中の窒素の一部が、高分子膜を通過して水素極側に混入すると、水素濃度を低下させるということに起因している。そこで、混入した不純物を排出する必要が生じ、その一例として、一定時間毎に水素極側のガスを水素で置換する方法がある。この場合、置換により排出されるガス中には可燃性の水素が含まれるため、そのまま大気中に放出することは好ましくなく、何らかの処理が必要となっている。

【0005】ここで、水素を含む混合ガスの処理方法としては、従来、分析計等において水素透過膜を用いることにより（または混合ガス中の他の成分である窒素を分離するための窒素透過膜を用いることにより）、水素を分離回収する方法がある。また、水素を無害化して排出する一般的な方法として、バーナーを付設して燃焼により水素を除去する方法が考えられる。

#### 【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、燃料電池から排出されるガス量は、分析計等が扱う量に比べると桁違いに多く、圧力損失が増大して動力が増大する問題がある。また、バーナーを付設する方法は、バーナーで高温燃焼することにより、NO<sub>x</sub>が発生する問題があり、より安全かつクリーンに排出水素を処理する方法が要求されている。

【0007】また、発電時には、燃料電池から排出されるガス中に、水分が多量に含まれる。一方で、運転状態によっては水分を含まない、より高濃度で多量の水素を含むガスが排出されることがある。例えば、水素を燃焼させて処理した時に、水分を多量に含むガスに比べて水分を含まないガスは燃焼しやすいため、温度が上昇し過ぎるおそれがある。

【0008】そこで、本発明は、純水素を燃料とする燃料電池において、燃料電池から排出されるガス中の水素を、大気中にそのまま放出することなく、安全かつ迅速に処理することができ、さらに、運転状態に応じて排出ガス中の水素や水分量が変動しても、過昇温等の不具合が生じない排出水素処理装置を提供することを目的とする。

#### 【0009】

【課題を解決するための手段】本発明は、車両用のような移動式燃料電池で、水素ガスをタンクや吸蔵合金とい

(1)、(2)で表される反応が生じる。

った貯蔵手段に蓄えて搭載するタイプの燃料電池において、水や窒素が混入して発電に使用できなくなった水素を含む排出ガスを、安全に処理するための簡素な装置を提案するものである。そして、燃料電池の空気極側から排出される排出ガスには、水素極側から排出される水素を含む排出ガスを酸化するに十分な酸素が含まれることや、水素は常温で触媒燃焼可能であることから、酸素を支燃ガスとして触媒燃焼させる処理装置が有効であることを見出した。その際、水素は燃焼速度が非常に速く、その反応速度は温度に大きく依存すること、そのため、触媒と接した直後に急速に反応が進み、水素濃度が急激に低下した後、緩やかに低下を続ける指指数的反応を生じることに注目した。さらに、湿った触媒表面を乾燥せながら反応を維持するためには、所定の水素量が必要であるとともに、触媒温度が、水分の少ない乾燥したガスの排出時よりも低下することに着目して、運転状態に応じた最適な触媒体構成および水素排出通路構成を検討し、以下の手段を備える本発明に到達した。

【0010】すなわち、本発明請求項1は、固体高分子電解質膜を挟んで水素極と空気極を配置し、水素極に水素ガスを、空気極に空気を供給して発電を行う燃料電池において、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置を提案するものである。この装置は、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、導入されるガス中の水素濃度分布に応じて上記触媒体の構造を変更することを特徴とするものである。

【0011】上記構成によれば、上記触媒体を用いて水素を触媒燃焼させるので、バーナーで高温燃焼する場合のようにNO<sub>x</sub>が発生することがない。また、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして利用するので、新たな支燃ガス供給装置が不要である。さらに、上記触媒体内の水素濃度分布は、一定ではなく、通常、触媒入口部で最も高く、温度上昇しやすいので、例えば、この部位で発生する熱を吸収し、または、発熱を抑制するように、水素濃度分布に応じて上記触媒体の構造を変更すれば、局所的な温度上昇を防止することができる。よって、簡素な構成で安全に効率よく水素を処理することができる。

【0012】上記課題を解決するための他の構成として、請求項2の装置は、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えており、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位における体積当たりの熱容量が他の部位よりも高くなるように構

成している。

【0013】上記したように、上記触媒体内の水素濃度分布は、通常、触媒入口部で最も高く、温度上昇しやすいので、この部位の熱容量を他の部位より高くすれば、触媒表面で発生した熱を吸収して、触媒体の部分的な過昇温を防止することができる。よって、簡素な構成で安全に効率よく水素を処理することができる。

【0014】上記課題を解決するための他の構成として、請求項3のように、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を設けるとともに、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位における、単位体積当たりの発熱量が、他の部位よりも小さくなるように構成することもできる。

【0015】上記構成によれば、上記触媒体内の水素濃度が高く、急激な温度上昇が起きやすい部位の発熱量を小さくすることで、同様に、触媒体の部分的な過昇温を防止することができる。よって、簡素な構成で安全かつ高効率な水素処理装置が得られる。

【0016】上記課題を解決するための他の構成として、請求項4のように、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を設けるとともに、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位における、単位体積当たりの触媒の担持面積が、他の部位よりも小さくなるように構成することもできる。

【0017】上記構成によれば、上記触媒体内の水素濃度が高く、急激な温度上昇が起きやすい部位の触媒担持面積、すなわち発熱面積を小さくすることで、同様に、触媒体の部分的な過昇温を防止することができる。よって、簡素な構成で安全かつ高効率な水素処理装置が得られる。

【0018】または、請求項5のように、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を設けるとともに、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が高い部位の、単位面積当たりの触媒担持量が、他の部位よりも少なくなるように構成することもできる。このようにしても、発熱量を小さくして触媒体の部分的な過昇温を防止する同様の効果が得られる。

【0019】具体的には、請求項6のように、上記触媒体を、ハニカム構造の担体に触媒を担持した構成として、上記導入されるガス中の水素濃度が高い部位における、上記担体の通路壁の厚さを、他の部位よりも厚くする。これにより、この部位の熱容量が大きくなり、また、触媒の担持面積も小さくなるので、発熱量自体が低減し、上記効果を容易に得ることができる。

【0020】あるいは、請求項7のように、上記触媒体を、ハニカム構造の担体に触媒を担持した構成として、上記導入されるガス中の水素濃度が高い部位における、

上記担体の通路断面積を大きくしてもよい。このようにすると、触媒の担持面積が小さくなり、発熱量が低減するので、上記効果を容易に得ることができる。

【0021】請求項8の装置では、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を設けるとともに、上記触媒体を、導入されるガス中の水素濃度が急激に低下した部位における、単位体積当たりの水素処理能力が、他の部位よりも大きくなるように構成する。

【0022】上記触媒体内の水素濃度分布は、通常、触媒入口部で最も高く、急速に反応が進んで急減するが、その後は緩やかに低下を続ける。そこで、水素濃度がゆっくり減少する部位の処理能力を高めれば、触媒体のガス流れ方向の長さを短くでき、小型化が図れる。また、通常の処理能力では、水素の流れ始め、つまり触媒温度が低くて活性が低い時に、水素が十分に反応しないまま排出されるおそれがあるが、処理能力の高い部位を設けることで、排気エミッションの悪化を防止することができる。しかも、定常時には水素濃度分布の低い部位があるので、処理能力を高くしても、必要以上に反応熱が発生して過昇温となることがない。逆に、立ち上がり時には、この部位で反応が進みだせば、その輻射および伝熱にて上流側の触媒入口部が活性化するので、部分的な過昇温を抑制しつつ触媒体全体を活性化して効率よく処理することができる。

【0023】具体的には、請求項9のように、上記触媒体をハニカム構造の担体に触媒を担持した構成とし、上記導入されるガス中の水素濃度が急激に低下した部位における、単位面積当たりの触媒担持量を、他の部位よりも多くすることで、単位面積当たりの水素反応量を増加させる。このようにすると、水素濃度を所定のレベルまで低下させるのに必要な触媒体のガス流れ方向の長さを短くし、小型化できる。つまり、排出ガス中の大半の水素が一気に反応した後は、排出ガス中の水素濃度が低くなって、ガスと触媒表面の濃度勾配が小さくなる上、ガスが水素の発熱により体積膨張することによって流速が増大する。すると、水素が徐々にしか反応しないために、水素量が少量であるにもかかわらず、処理に相当の距離を要することになるが、上記構成とすることで、これを回避し、小型化で処理能力を大きい装置が得られる。

【0024】あるいは、請求項10のように、上記触媒体をハニカム構造の担体に触媒を担持した構成とともに、導入されるガス中の水素濃度が急激に低下した部位における、単位面積当たりの触媒の担持面積が、他の部位よりも大きくなるようにしてもよい。このようにしても同様の効果が得られ、水素濃度勾配とガス流速による反応の低下を防止して、小型で処理能力が大きい装置を実現できる。

【0025】請求項11のように、上記触媒体は、例え

ば、セラミック製または金属製のハニカム構造の担体を用いて構成することができる。セラミックハニカム担体は、型を用いた大量生産が可能で、コスト低減が可能である。また、金属ハニカム担体は、金属の波板と平板を重ね合わせて作成され、ギヤ歯車により波板を容易に加工できる上、同じ波板を利用しても、山高さ等の変更が容易なため、製作しやすく、安価である。また、セラミック製では、熱膨張で割れが生じないように外周を支持するセラミックシートを巻く必要があって、長手方向に短い担体は作製しにくいため、このような場合には、金属製とすると有利である。

【0026】上記課題を解決するために、請求項12の装置では、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を設けるとともに、上記触媒体をガス流れの方向に複数に分割して、それぞれ異なる材質とする。この時、上流側にセラミック製の担体を用いた触媒体を配置し、その下流側に金属製の担体を用いた触媒体を配置すると、上記触媒体に導入されるガス中の水分をセラミック担体に吸着させるとともに、金属担体部で発生した熱の伝導および輻射で乾燥させることができる。

【0027】発電中に燃料電池の空気極から排出されるガスには、通常、多量の水蒸気が含まれるため、触媒表面に水分が吸収されて、反応が進まず、水素の排出直後のエミッションが悪化するおそれがある。そこで、上記構成のように、上流側にセラミック担体を用いて水分を吸収させることで、下流側への水分の流入が抑えられ、ドライガスとなるため、速やかに反応が開始される。また、下流側を金属担体としたので、急激に発生した熱を熱伝導の良い担体全域に分散して、金属担体部の入口付近で局所的な過昇温が生じるのを防止できる。金属担体部で反応が開始されれば、水分を吸収したセラミック担体部は、金属担体部からの熱で乾燥されるので、次の水素排出までに空気極から排出される水分を十分吸収可能である。

【0028】請求項13のように、上記触媒体の設置位置は、上記空気極からの排出ガスを大気への放出するための排出通路内とするとよい。上記水素極からの水素の排出は連続的でなく、通常、ある時間間隔をおいて（例えば、10分に一度）排出される。一方、上記空気極からは、常時、ガスが排出されているので、この排出ガスに上記触媒体を常に接触させることにより、水素が排出されない間を利用して、上記触媒体を冷却することができる。よって、上記触媒体の過度の昇温を避けるために排出水素量を抑制する等の必要がなく、時間当たりに燃焼させる水素量の増大が可能である。また、従来より、燃料電池に常設される排出通路に上記触媒体を設置することで、装置構成を簡単にし、省スペース化が図れる。

【0029】好適には、請求項14のように、上記触媒体の設置位置を、上記排出通路内で、かつ大気への放出

口の近傍とするとよい。これにより、導入されるガスの単位体積当たりの水分量を低下させることができる。つまり、燃料電池では、発電効率を上げるために、内部を加圧状態とし、ほぼ飽和水蒸気となったガスを導入して燃焼させるので、多量の水蒸気を含むガスが排出される。排出通路では出口に近いほど、ガスの圧力が低くなり、気体として保持できる水分量が多いことから、ドライに近い状態で上記触媒体に導入することができ、触媒表面上で水分が凝結しにくくなる。よって、触媒と水蒸気の衝突機会を低減させて、触媒の燃焼開始までの時間を短縮できる。

【0030】請求項15のように、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備える装置にて水素の処理を行うために、具体的には、上記水素極側から排出される水素を含む排出ガスを上記触媒体に導くための水素排出通路と、上記水素排出通路を開閉する開閉手段と、上記開閉手段の開閉を制御し、上記水素排出通路を定期的に開放して上記水素を含む排出ガスを上記触媒体に導入する制御手段を設ける。該制御手段は、上記触媒体の予熱期間中、上記開閉手段の開閉を短時間に繰り返して間欠的に上記水素を含む排出ガスを導入する制御を行う。

【0031】上記水素排出通路を定期的に開放して上記水素を含む排出ガスを上記触媒体に導入する場合、触媒を活性化するには、まず、例えば、少量の水素を導入して活性化させ、その後規定量の水素を排出する制御が容易に考えられるが、これでは、水蒸気にさらされて活性が低下している触媒に十分な反応を生起することができず、エミッションは悪化する。これに対し、ある一定量の水素を、ごく短時間に排出した場合は、触媒燃焼が一部起きるため、投入された一部の水素は浄化される。これを複数回繰り返した後に、所定量の水素を排出すれば、触媒を初期から高い活性で使用でき、エミッションを低く抑えることが防止できる。

【0032】請求項16の装置は、燃料電池の水素極側から排出される水素を含む排出ガスを処理するための装置であって、上記水素を含む排出ガスを、上記空気極側から排出される酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして触媒燃焼させる触媒体を備えている。この装置では、上記触媒体に、上記水素を含む排出ガスを導入するための通路を設けるとともに、該通路を、上記触媒体の各部位が所望の発熱量となるように、上記触媒体のガス流れ方向の複数箇所に上記水素を含む排出ガスを分割して導入する構造としたことを特徴とする。

【0033】上記構成では、上記触媒体の構造を変更する代わりに、上記触媒体に上記水素を含む排出ガスを導入するための通路の構造を、上記触媒体の各部位が所望の発熱量となるように変更する。上記触媒体の各部位の発熱量は、導入される水素量で調整できるので、上記水素を含む排出ガスを各部位に分割供給して、それぞれの

供給量を調整すれば、局所的な温度上昇を防止し、簡素な構成で安全に効率よく水素を処理することができる。

【0034】請求項17の装置は、上記触媒体に、上記水素を含む排出ガスを導入するための通路を設けるとともに、該通路に、上記触媒体のガス流れ方向の複数箇所に上記水素を含む排出ガスを分割して導入する複数の分岐路を設ける。そして、これら複数の分岐路を、対応する上記触媒体の各部位が所望の発熱量となるように構成する。

【0035】具体的には、上記複数の分岐路から、上記水素を含む排出ガスを上記触媒体の各部位に導入すれば、各分岐路の形状等を変更することで、上記触媒体の各部位に導入するガス流量を調整することができる。よって、上記触媒体の各部位を所望の発熱量とし、局所的な温度上昇等を防止して、安全に効率よい水素処理装置とすることができる。

【0036】請求項18の装置は、上記触媒体に、上記水素を含む排出ガスを導入するための通路を設け、該通路に、上記触媒体のガス流れ方向の複数箇所に上記水素を含む排出ガスを分割して導入する複数の分岐路を設ける。さらに、これら複数の分岐路を、上記触媒体のガス流れ方向の上流側に下流側よりも多くの上記水素を含む排出ガスが導入される構造とする。

【0037】通常の発電時には、水蒸気を多く含んだガスが排出されるため、触媒表面が濡れて反応が起こりにくくなるが、上記触媒体の上流側により多くの上記水素を含む排出ガスが導入される通路構成とすることで、上流の触媒体において集中的に発熱させ、速やかに触媒を活性化することができる。また、発電停止時や起動時は、水素濃度が高く水蒸気量が少ないガスとなるが、上記複数の分岐路により下流側の触媒体にもガスが導入されるので、触媒体全体で発熱させ、安全かつ効率のよい処理を行うことが可能になる。

【0038】請求項19のように、具体的には、上記複数の分岐路の流路断面積を変更する。例えば、上記触媒体の上流側に対応する分岐路の流路断面積を大きくし、通気抵抗を小さくして、上記触媒体のガス流れ方向の上流側に下流側よりも多くの上記水素を含む排出ガスが導入されるようにすることができる。

【0039】あるいは、請求項20のように、上記複数の分岐路の端部に設けられ、上記触媒体の各部位に上記水素を含む排出ガスを導入するための導入口の開口面積または数を変更することもできる。例えば、上記導入口の開口面積を大きく、または数を多くすれば、導入されるガス量が多くなるので、上記触媒体のガス流れ方向の上流側に下流側よりも多くの上記水素を含む排出ガスが導入されるようにすることができる。

【0040】上記項21の構成では、上記複数の分岐路への上記水素を含む排出ガスの流入を制御する流路切替手段を設ける。そして、燃料電池の発電時には、上記触

媒体のガス流れ方向の上流側に、上記水素を含む排出ガスのほぼ全量が導入されるように、流路切替を行い、発電停止時または起動時には、上記触媒体のガス流れ方向の下流側にも、上記水素を含む排出ガスが導入されるよう、流路切替を行うことを特徴としている。

【0041】発電時には、水蒸気を多く含んだガスが排出され、乾燥したガスより触媒体の温度が上昇しにくいため、例えば、上記触媒体の上流側にガスを導入する分岐路のみを開いて、上記水素を含む排出ガスのほぼ全量を上流部に供給して、速やかに温度を上昇させることができる。一方、発電停止時や起動時は、水素濃度が高く水蒸気量が少ないため、上記触媒体の下流側にガスを導入する分岐路も開いて、触媒体全体で発熱させれば、より安全に効率よく処理を行うことができる。

【0042】上記項22の構成では、上記触媒体の、ガス流れ方向の前面に、発泡金属よりなる気液分離部材を設ける。発泡金属は比表面積が非常に大きいので、その表面で排出ガス中の水分を積極的に凝縮させて、除去することができる。このようにすると、排出ガス中の水分が上記触媒体内で凝縮して触媒表面を濡らすことがないので、触媒反応を促進して効率よい処理が可能になる。

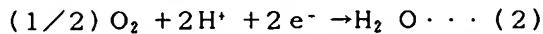
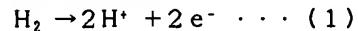
【0043】上記項23の構成では、上記気液分離部材のガス流れ方向の前面に、凝縮水が存在しやすい部位を覆う遮蔽部材を設ける。凝縮水で触媒が濡れた部位に水素を含むガスが流入すると、すり抜けが生じるので、凝縮水がたまりやすい部位を覆うように気液分離部材を設けることで、すり抜けを防止し、確実に水素を処理することができる。

【0044】

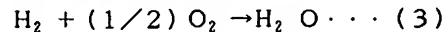
【発明の実施の形態】以下、図面により本発明の第1の実施の形態を説明する。図1は、自動車用の燃料電池システムの概略構成を示す図で、燃料電池1には、エアポンプ等の空気供給手段31と、高圧圧縮水素タンク等の水素貯蔵手段32が接続され、排出通路4には、触媒体22を備えた排出水素処理装置2が設置されている。燃料電池1は、固体高分子電解質膜12と、その一方の表面に設けた空気極（陽極）13と、他方の表面に設けた水素極（陰極）14からなる単位セル11を主要部として有し、この単位セル11を、電極に接する表面にガス流路となる溝を形成したセバレータ（図略）を介して、多数積層することにより構成される。排出水素処理装置2の上流側には、消音器5が設置されている。

【0045】固体高分子電解質膜12には、例えば、フッ素樹脂系のプロトン導電性固体高分子電解質膜が用いられる。空気極13および水素極14には、導電性とガス透過性を兼ね備えた材料、例えば、カーボンクロスやカーボンペーパ等が用いられ、電極反応を促進するための触媒を担持させることもできる。空気極13で使用される酸素は、空気供給手段31から加圧空気として供給され、また、水素極14で使用される水素は、水素貯蔵

手段32から、同じく加圧ガスの状態で燃料電池1に供給される。この時、水素極14では、下記式(1)に示す電極反応により水素イオンが生成する際に電子を放出し、その電子が空気極13側へ移動することによって発電する。水素イオンは高分子電解質膜12内を通って、空気極13に達し、下記式(2)に示す電極反応により水が生成する。



なお、電池全体の反応は、式(3)のようになる。



【0046】ここで、上記式(1)のように、水素は水素極14でイオンに分解され、固体高分子電解質膜12内を空気極13側へ拡散していく。従って、水素極14からの排出ガスは、理論上は、電極反応で使用されなかつた余剰の水素ガスのみとなり、これをポンプ等の水素循環手段33を用いて、水素貯蔵手段32からの水素供給経路へ循環させ、水素極14で使用された分の水素が新たに供給させるシステムとすれば、発電を継続することができるはずである。ところが、実際には、固体高分子電解質膜12を通過する空気極13側の窒素や生成水が水素極14側に流入するために、水素循環手段33を用いて水素を循環させる運転を続けると、水素極14側の水素濃度が先の不純物によって低下する。そこで、水素濃度を一定以上に保つため、定期的に水素極14側のガスを排出して水素を導入する水素置換を行う。

【0047】具体的には、水素循環手段33と排出通路4とを接続する水素排出通路41を設けて、該水素排出通路41に電磁バルブ等の開閉手段34を設置する。開閉手段による水素排出通路41の開閉は、制御手段35を用いて制御することができ、例えば10分に一度、数秒間、水素排出通路41を開放して、水素を含む排出ガスを排出通路4へ排出する。この定期的な水素排出時の制御の詳細は後述する。排出通路4は、空気極13側から排出される酸素を含む排出ガスを大気へ放出するための通路であり、本発明では、この酸素を含む排出ガスを支燃ガスとして、排出水素処理装置2に導入し、水素を含む排出ガスを触媒燃焼させて水素濃度を十分低減させた後、排出する。また、空気極13側から排出される酸素を含む排出ガスは、運転中、常に排出されるので、水素の排出による発熱で高温となった排出水素処理装置2内の触媒体22は、次の水素排出までにガス温度まで冷却される。

【0048】なお、図のように、消音器5を設ける場合には、排出水素処理装置2を、消音器5の下流側に配置することが望ましい。これは、排出通路4内が下流側ほど、つまり大気への放出口に近いほど低圧力となり、ガスの単位体積当たりの水分量が少なくなるためである。バーナー等、一般的な燃焼器は、騒音低減等の観点から消音器5の上流側に配置されることが多いが、本発明で

は、比較的低温で触媒燃焼させるため、凝縮水の発生による温度低下等を回避する目的で、上記位置に設置する。また、消音器5を上流側に設置することにより、水素を含む排出ガスと酸素を含む排出ガスが、消音器5内で良好にミキシングされて排出水素処理装置2を導入され、燃焼効率を向上させる利点もある。

【0049】排出水素処理装置2は、筒状容器21内に、水素を触媒燃焼させるための触媒体22を配設してなる。図2に詳細を示すように、触媒体22は、ガス流れの上流側に位置する上流側触媒体201と、下流側に位置する下流側触媒体202とに区画されており、これら触媒体201、202は、いずれも、ガスの流れ方向と平行な多数の通路を有するハニカム構造の担体に、触媒を担持して形成されている。ここで、本実施の形態では、上流側触媒体201の通路壁211が、下流側触媒体202の通路壁212より厚くなるように形成する。上流側触媒体201の通路と下流側触媒体202の通路の断面積、単位面積当たりの触媒担持量は同じとする。

【0050】この時、壁厚を厚くした上流側触媒体201は、単位面積当たりの熱容量が、下流側触媒体202よりも大きくなる。一方、壁厚が厚いと各通路の表面積は小さくなるので、単位体積当たりの発熱面積、すなわち、触媒の担持面積は上流側触媒体201の方が、下流側触媒体202よりも小さくなる。触媒体22に導入される排出ガス中の水素濃度は、入口に近い上流側端部で最も高く、従って、発熱量も多くなりやすいが、本実施の形態では、この部分の熱容量を大きくして、熱を吸収しやすくしたので、過度の昇温が防止される。また、触媒の担持面積(担持量)を小さくしたので、発生する熱自体が小さくなる。

【0051】上流側触媒体201および下流側触媒体202の長手方向長は、次のようにして設定する。触媒体22内の水素濃度分布は、一般に、入口部で最も高く、急速に反応が進んで急減した後、緩やかに低下を続ける。つまり、触媒体の壁厚が一定である場合(上流側触媒体201の壁厚を厚くしていない場合)、図3に点線で示すように、触媒体22の上流側(図にxで示す領域)で水素が触媒と接触して急速に反応が進み、触媒体22温度も急上昇するが、次いで、水素濃度の減少とともに触媒体22温度も急減する。触媒体22の下流側(図にyで示す領域)では、水素濃度と同様、緩やかに温度が低下して、距離yでほぼ目標温度となる。そこで、図2のように、これらx、yに対応させて、上流側触媒体201と下流側触媒体202の長手方向の長さx、yを設定する。こうすることで、濃度の高いガスが供給され続け、触媒体温度が比較的高い領域xの温度を低く抑えることが可能となる。

【0052】上記構造の触媒体22を製作する場合には、まず、例えば、ジルコニア等のセラミックを通常の方法で型成形・焼成して所定形状の担体を作製し、触媒

溶液に浸漬することにより、上流側触媒体201と下流側触媒体202とを、それぞれ別体に製作した後、密着させて一体化すればよい。なお、ジルコニア等のセラミック担体は、成形が簡単で量産しやすい利点があるが、担体の材質は、これに限らず、例えば、金属製の担体を用いることもできる。金属担体は、水分を含みにくく、熱伝導がよいので濃度分布が少なくできる。

【0053】本実施の形態の作動を次に説明する。図1の燃料電池1に、空気供給手段31から空気を、水素貯蔵手段32から水素を供給すると、上記式(1)、

(2)のように反応し、発電する。水素貯蔵手段32から供給される水素は、循環手段33によって循環され、水素貯蔵手段32からは実質発電で消費された水素量だけが供給される。ただし、循環される間に、空気極13から窒素や水蒸気が混入し水素濃度が低下して一定濃度以下となると発電に使用できなくなるため、開閉手段34を開いて、水素排出通路41から排出通路4に排出し、排出水素処理装置2内で触媒燃焼させてクリーンなガスとする。

【0054】触媒体22に導入された水素は、空気極13から排出される酸素を含むガスを支燃ガスとして燃焼する。ここで、上述したように、触媒体22内の水素濃度分布は、一般に、入口部で最も高く、急速に反応が進んで温度上昇するが、触媒体22は、上流側触媒体201の壁厚を下流側触媒体202より厚くしており、熱容量が大きいために、熱を吸収しやすい。また、触媒担持面積が小さいので、発熱量自体を抑制できる。

【0055】触媒体の熱容量は、定常運転時にはあまり影響するものではないが、本装置のように水素を含むガスが間欠的に供給され、短時間に大きな発熱を伴う場合には、触媒体22の上流側触媒体201を熱吸収体として使用することで、過度の発熱を抑制することができる。その効果は図3に明らかで、壁厚が一定である場合に比べて、壁厚が厚い上流側触媒体201が熱を吸収するとともに、発熱面積が小さくなることによって、触媒体温度の上昇が小さくなり、最高温度が大きく低下している。上流側触媒体201で反応しなかった水素が燃焼するために、下流側触媒体202内に入ると触媒体温度が再び上昇し、その後、低下してほぼ一定温度となる。

【0056】このように、上記構成によれば、過度の温度上昇を抑制しつつ触媒体22全体で効果的に触媒燃焼することができ、安全かつ効率よく排出水素を処理することができる。また、排出水素処理装置2を、空気極13の排出通路4に設置したので、支燃ガス供給のための新たな装置を設ける必要がなく、構成を簡略化し、コストを低減できる。

【0057】図4に本発明の第2の実施の形態における触媒体22構成を示す。上記第1の実施の形態では、上流側触媒体201が過昇温となりやすい点に着目して、その温度上昇を抑制する構成を示したが、本実施の形態

では、図4(a)のように、下流側触媒体202の単位面積当たりの触媒担持量を、上流側触媒体201よりも多くして、下流側触媒体202の燃焼効率を高め、触媒体22の小型化を図っている。上流側触媒体201と下流側触媒体202は、同一構造の担体を用いて一体に形成されており、通路断面積、壁厚は同じである。

【0058】同一の担体を用いて上流側触媒体201と下流側触媒体202とで触媒担持量を変えるには、触媒濃度の異なる2種類の触媒溶液を用意し、担体の一方の端面から長さxの部分を低濃度の触媒溶液に浸漬して、上流側触媒体201とするとともに、残る長さy'の部分を他方の端面側から高濃度の触媒溶液に浸漬して、下流側触媒体202とすればよい。

【0059】一般に、触媒体22内の水素濃度は、図5(b)に示すように、入口部で最も高く、急速に反応が進んで距離xまでに急減し、その後は緩やかに低下を続けて距離y'でほぼ所定の低濃度となる。つまり、上流側触媒体201と下流側触媒体202の単位面積当たりの触媒担持量が同じ場合、水素濃度を所定濃度以下とするには、下流側触媒体202の長手方向長さを距離y'に応する長さとする必要があり、体格が大きくなる(図5(a))。

【0060】これに対し、本実施の形態では、下流側触媒体202の触媒担持量が多く、反応性が高まって温度も上昇しやすいので、触媒燃焼量が増加する。よって、図4(b)のように、距離y'よりも短い距離y'で、水素濃度を十分低くすることができ、下流側触媒体202の長さをその分短くできるので、触媒体22をコンパクトにし、小型で処理能力の高い装置とすることができる。また、下流側触媒体202の処理能力を高めたことで、水素の流れ始め、つまり触媒温度が低くて活性が低い時でも、水素の反応が進み、エミッションの悪化を防止することができる。しかも、下流側触媒体202は、定常時の水素濃度分布が低いので、処理能力を高くしても、必要以上に反応熱が発生して過昇温となることがない。逆に、立ち上がり時には、この部位で反応が進みだせば、その輻射および伝熱にて上流側の触媒入口部が活性化するので、部分的な過昇温を抑制しつつ触媒体全体を活性化して効率よく処理することができる。

【0061】図6に本発明の第3の実施の形態における触媒体22構成を示す。本実施の形態では、上流側触媒体201と下流側触媒体202を構造の異なる担体を用いて構成し、図6(a)のように、下流側触媒体202の担体を、通路断面積が上流側触媒体201よりも小さく、壁厚も薄く形成した担体とする。単位面積当たりの触媒担持量は、上流側触媒体201と下流側触媒体202とで同じとする。

【0062】上記構成によれば、壁厚が薄い下流側触媒体202は、熱容量が小さいので、触媒体温度が高くなりやすく、反応定数が大きくなるので処理量が増大す

る。また、通路断面積が小さく、単位体積当たりの発熱面積（触媒担持面積）が大きくなることも触媒燃焼量の増加に寄与する。よって、上記第2の実施の形態と同様、下流側触媒体202の長手方向の長さをy' と短くすることができ、また、立ち上がり時には、下流側触媒体202で水素の反応が進み、エミッションの悪化を防止するとともに、上流側触媒体201の活性化を促進する効果が得られる。

【0063】図7に本発明の第4の実施の形態における触媒体22構成を示す。本実施の形態では、上流側触媒体201と下流側触媒体202を構造の異なる担体を用いて構成し、図7(a)のように、上流側触媒体201にジルコニア等のセラミック担体を用い、下流側触媒体202には金属担体を用いる。下流側触媒体202を構成するは金属担体は、金属箔よりなる平板23と波板24を図7(b)のように重ねて積層しても、重ねたものを巻き回してハニカム状としてもよい。金属担体を用いる下流側触媒体202は、上流側触媒体201よりも壁厚が薄く、また、通路断面積が小さくなるように形成してある。

【0064】金属担体は、セラミック担体よりも、単位体積当たりの熱容量を小さくできるため、これを下流側触媒体202に用いれば、運転初期の触媒体22が温った状態でも、早期に活性化できる上、定常燃焼時には、水素濃度の薄いガスとのみ接触するので、過昇温のおそれがない。一方、燃料電池の空気極から排出されるガスには、通常、多量の水蒸気が含まれるため、触媒表面に水分が吸収されて、反応が阻害されるおそれがあるが、セラミック担体は、担体自身が水分を吸収するため、これを上流側触媒体201に用いると、ガスのドライ化に大きく貢献する。また、吸収された水分は、下流側の金属担体で発生する熱の伝導および輻射で乾燥される。

【0065】さらに、金属担体は、金属箔の厚みや波板のピッチ、山の高さを変更することで、形状の変更が容易にできるので、本発明のように、上流側触媒体201と下流側触媒体202で担体の熱容量や触媒担持面積を変更する場合に、製作が容易になる。また、セラミック担体では保持が難しくなる長手方向に短い形状も、容易に製作、設置することができる。

【0066】図8は、水素極14からの排出ガスを、水素排出通路41から排出通路4に排出する際の、制御手段35による開閉手段34の開閉制御の一例である。水素極14の水素濃度を一定以上に保持するには、図示するように、定期的に（例えば10分に一度）、電磁バルブ等の開閉手段34を開いて、水素を含む排出ガスを排出する必要がある。この時、図中、破線で示すように、所定のガス量の全量を一度に排出する方法が一般的であるが、この方法では、触媒体22が活性化していない排出水素処理装置2内に、水素濃度の比較的高いガスが流入するために、始動初期の排出水素濃度が一時的に目標

値を越えてしまう。また、活性化後は触媒燃焼量が増大して触媒体22が高温となりやすい。

【0067】このため、図中、実線で示すように、制御手段35により、開閉手段34の開閉を短時間に繰り返す制御を行って、触媒体22の予熱期間中、触媒が活性化する程度の水素を間欠的に排出水素処理装置2内に導入する。このように、ある程度高濃度の水素ガスを、ごく短時間に導入することで、水蒸気で温った触媒表面を乾燥させて、瞬時に活性化し、始動初期の排出水素を目標値より低く抑えると同時に、効果的に触媒を活性化できる。これを適当な回数繰り返した後に、残りの水素を排出すれば、効率よく触媒燃焼を行うことができ、排気エミッションの優れた装置が実現する。

【0068】このように、本発明によれば、空気極13からの排出ガスを利用した簡易かつ高性能な排出水素処理装置が実現できる。また、触媒体22は、過昇温が起きやすい部位には、熱容量の比較的高い担体を用いたり、触媒担持量や発熱面積を変化させることで、容易に過昇温を解消し、あるいは、通常、水素濃度・触媒温度が低く、水素処理効率の低い部位には、触媒担持量や発熱面積を増加することで、処理能力を高めた構成として、触媒体22の小型化を可能にしている。さらに、制御方法を最適化することで、立ち上がり時のエミッションの悪化や、過昇温を防止することができる。

【0069】なお、上記各実施の形態で示した上流側触媒体201および下流側触媒体202の構成や制御方法は、それぞれ単独で用いても、目的に応じていくつかを組み合わせてもよく、さらに良好な排出水素処理を行うことができる。

【0070】また、上記各実施の形態では、排出水素処理装置2上流の排出通路4に、水素循環手段33からの水素排出通路41を接続して、水素を含む排出ガスを触媒体22の前面に導入したが、水素排出通路41を分岐し、触媒体22の複数の部位に水素を含む排出ガスを導入するようにしてもよく、運転状態に応じたより適切な処理が可能となる。その一例を次に示す。

【0071】図9は、本発明の第5の実施の形態における燃料電池システムの概略構成である。図示するように、本実施の形態では、上記図1に示した燃料電池システムにおいて、水素貯蔵手段32から燃料電池1へ至る通路の途中にバルブ36を、水素極14から水素循環手段33へ至る通路の途中にバルブ37をそれぞれ設けている。これにより、発電を停止した時に、バルブ36、37を閉じて燃料電池1内に水素を閉じ込め、水素極14側からの水素の漏れや消費を回避することが可能となる。ただし、発電中の燃料電池1内は加圧状態となっており、これに対して空気極13側は停止後まもなく大気圧になるため、圧力差により水素極14側から空気極13側へ水素が移動して両極ともに高濃度の水素を含む混合ガスが充満することになる。この場合、燃料電池1を

再起動する時に、水素極14側には水素を、空気極13側には空気を流して混合ガスをバージする必要が生じる。

【0072】そこで、本実施の形態では、制御手段35により、発電停止時にバルブ36を閉じた後、水素極14が大気圧になるまでバルブ37を開放し、開閉手段34を開いて水素極14側のガスを水素排出通路41に排出する。これにより、両極間の圧力差を解消し、ガスを混合を最小限に抑えることができる。水素極14が大気圧になつたらバルブ37、開閉手段34は閉じる。

【0073】この発電停止時に排出されるガスは、発電中に排出されるガスよりも水素濃度が高く、また支燃ガスとなる空気極13側の排出ガスもアイドリング相当と少な上、電極反応で生成する水分を含まないため乾燥している。このため、全量を触媒体22の前面に導入すると、触媒反応が急激に立ち上がって、過昇温を起こしやすい。これを回避するため、本実施の形態では、触媒体22をガス流れ方向に3分割して配置する一方、水素排出通路41を分岐して、各分岐路41A、41B、41Cから、分割された触媒体22A、22B、22Cの前面にそれぞれ水素を含む排出ガスが導入される構成とする。この時、最上流の触媒体22Aに、他の触媒体22B、22Cより多くのガスが供給されるようにし、前段の触媒による燃焼ガスが流れるために温度が高くなる後段側において、ガス導入量がより少なくなるようにするといい。

【0074】例えば、図10に示す構成では、最上流の分岐路41Aを構成する管の管径が最も大きく、下流の分岐路41B、41Cの管径が順次、小さくなるようにする。各分岐路41A、41B、41Cの端部に開口して触媒体22A、22B、22Cにガスを導入する導入口42A、42B、42Cの径は、ここでは同径とし、数はいずれも1つとしている。管径の異なる管で分岐路を構成すると、管内圧損に応じた流量が導入口から吹き出で、上流側ほど多くのガスが供給されるようになることができる。

【0075】上記構成によれば、発電停止時に水素濃度の高い乾燥したガスが、比較的短時間に多量に排出されても、水素排出通路41の分岐路41A、41B、41Cから、分割された触媒体22A、22B、22Cのそれぞれに水素を含むガスが導入されるので、最上流の触媒体22Aが局的に過熱するのを防止できる。また、図10のように上流から下流へ向けて分岐路41A、41B、41Cの管径を小さくして、上流側でガス導入量が多くなり下流側ほど少なくなるようにしたので、高温の燃焼ガスが流れることにより下流側の触媒体22B、22Cが過熱することもない。図11は、排出水素処理装置2の長手方向距離と燃焼ガス温度の関係を示すもので、触媒体22全体で発熱させて、過昇温を防ぎつつ触媒燃焼させることができる。なお、起動時も、発電開始

直後は、水分を含まないガスが排出されるが、同様にして過昇温を抑制することができる。

【0076】また、通常の発電時には、水蒸気を多く含んだガスが排出されるため、乾燥したガスより触媒反応が起こりにくくなるが、触媒体22を、最上流の触媒体22Aに他の触媒体22B、22Cよりも多くの水素が供給されるように構成したので、最上流の触媒体22Aで集中的に発熱し、速やかに温度が上昇して優れた浄化性能を発揮する。このように、本実施の形態によれば、発電中および発電停止時のいずれにも好適に用いられ、状態の異なる排出ガス中の水素を、安全にしかも効果的に触媒反応させることができ、エミッションを低く抑えられることがある。

【0077】図12、図13は、分岐路41A、41B、41Cの構成の他の例である。例えば、図12のように、分岐路41A、41B、41Cの管径をいずれも同じにした場合には、触媒体22A、22B、22Cに水素を含むガスを導入する導入口43A、43B、43Cの径または数を変更することにより、流量を調整してもよい。ここでは最上流の触媒体22Aの導入口43Aの径を、他の導入口43B、43Cより大きくする。また、最下流の触媒体22Cの導入口43Cの数を、他の導入口43B、43Cより少なくしている。このようにしても、上流から下流に向けて水素を含むガスの吹き出し量が少なくなる。

【0078】あるいは、図13のように、分岐路41A、41B、41Cの管径、導入口44A、44B、44Cの径および数は同じとし、分岐路41Aと分岐路41Bの間の水素排出通路41にバルブ6を設けて、運転状態に応じてバルブ6を開閉する構成としてもよい。すなわち、通常の発電時のように、水蒸気を含む反応しにくいガスを処理する際には、制御手段35によりバルブ6を閉じ、最上流の触媒体22Aに分岐路41Aの導入口44Aから水素を含むガスの全量が吹き出すようにする。一方、発電停止直後は、水素濃度が高く水蒸気量が少ないガスとなるので、制御手段35によりバルブ6を開き、下流側の触媒体22B、22Cにも分岐路41B、41Cの導入口44B、44Cから水素を含むガスが導入されるようにする。また、この構成において、各触媒体22A、22B、22Cの温度を検出する手段を設け、その結果をフィードバックさせてバルブ6の開閉を制御すれば、より均一な温度に触媒体22を制御でき、安全で効率のよい処理を行うことが可能になる。

【0079】なお、上記の構成にして水分を含む60～70℃程度のガス中で、触媒体22Aにはほぼ常温の水素ガスを供給することにより、局所的にガス温度を下げて、しかも、触媒体22Aの表面にて水分を凝縮させることができる。よって、下流の触媒体22B、22Cに供給されるガスをできるだけ乾燥させて、触媒が不活性となるのを防止する効果も期待できる。

【0080】図14(a)、(b)は、本発明の第6の実施の形態における排出水素処理装置2構成を示すもので、触媒体22の前面に、発泡金属よりなる気液分離部材7を密接して配置する。気液分離部材7は、触媒体22と同径の円板状で、比表面積が非常に大きい発泡金属の表面で、導入されるガス中の水分を積極的に凝縮させる。凝縮水は重力により下方に落下、除去される。これにより、触媒体22が冷えている時に、凝縮水で触媒表面が濡れ、活性が低下するのを防止する。また、凝縮水で触媒が不活性となった部位に、水素を含むガスが流入するとすり抜けが生じるので、凝縮水がたまりやすい触媒体22下部を覆うように、気液分離部材7の前面に、略円弧状の遮蔽部材8を配設する。これら気液分離部材7と遮蔽部材8、触媒体22は互いに密接に配置されるので、反応が開始されて触媒体22の温度が上昇すると、水分は再び蒸発して排出される。

【0081】なお、発泡金属は、内部の気孔が互いに連通しており、ガス流れに平行な流れ以外にもガスが流通する。よって、触媒体22の、遮蔽板8でふさがれた部位にも、いくらかの水素を含むガスが流入し、触媒反応が生起するため、触媒体22を無駄にする割合が少なくて済み、効率的に浄化作用を行うことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態の排出水素処理装置を含む燃料電池システムの全体構成を示す概略図である。

【図2】第1の実施の形態における触媒体の拡大斜視図である。

【図3】触媒体の長手方向距離と触媒体温度の関係を示す図である。

【図4】第2の実施の形態を示し、(a)は触媒体の拡大斜視図、(b)は触媒体の長手方向距離と水素濃度の関係を示す図である。

【図5】単位面積当たりの触媒担持量を一定とした場合を示し、(a)は触媒体の拡大斜視図、(b)は触媒体の長手方向距離と水素濃度の関係を示す図である。

【図6】第3の実施の形態を示し、(a)は触媒体の拡大斜視図、(b)は触媒体の長手方向距離と水素濃度の関係を示す図である。

【図7】第4の実施の形態を示し、(a)は触媒体の拡

大斜視図、(b)は担体構成を説明するための部分拡大図である。

【図8】制御手段による水素の排出方法を説明するためのタイムチャートである。

【図9】本発明の第5の実施の形態における燃料電池システムの全体構成を示す概略図である。

【図10】第5の実施の形態における触媒体と分岐路の概略構成を示す拡大斜視図である。

【図11】排出水素処理装置の長手方向距離と燃焼ガス温度の関係を示す図である。

【図12】分岐路構成の他の例を示す拡大図である。

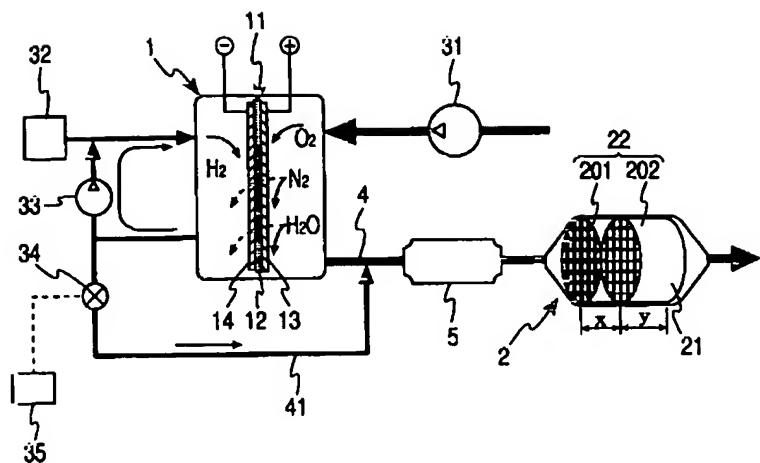
【図13】分岐路構成の他の例を示す拡大斜視図である。

【図14】第6の実施の形態における触媒体構成を示す拡大図で、(a)は正面図、(b)は断面図である。

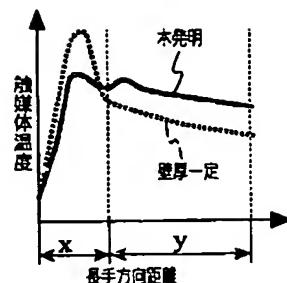
【符号の説明】

- 1 燃料電池
- 1 1 単位セル
- 1 2 電解質膜
- 1 3 空気極
- 1 4 水素極
- 2 排出水素処理装置
- 2 2 触媒体
- 2 0 1 上流側触媒体
- 2 0 2 下流側触媒体
- 2 2 A、2 2 B、2 2 C 触媒体
- 3 1 空気供給手段
- 3 2 水素貯蔵手段
- 3 3 水素循環手段
- 3 4 開閉手段
- 3 5 制御手段
- 3 6 バルブ
- 3 7 バルブ
- 4 排出通路
- 4 1 水素排出通路
- 4 1 A、4 1 B、4 1 C 分岐路
- 5 消音器
- 6 バルブ
- 7 気液分離部材
- 8 遮蔽部材

【図1】

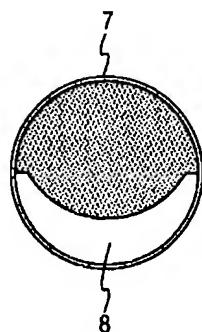


【図3】



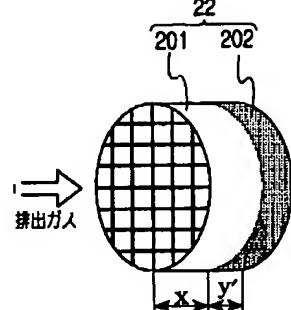
【図14】

(a)

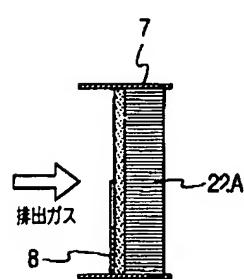


【図4】

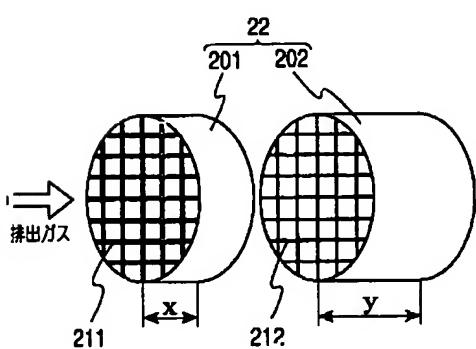
(a)



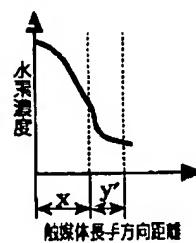
(b)



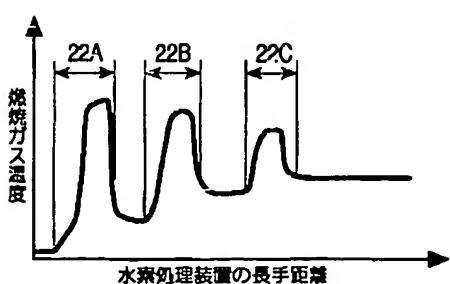
【図2】



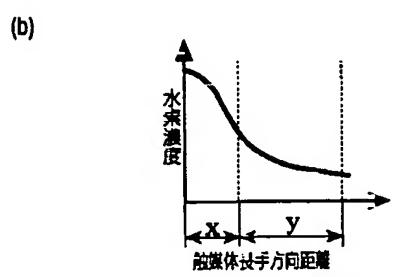
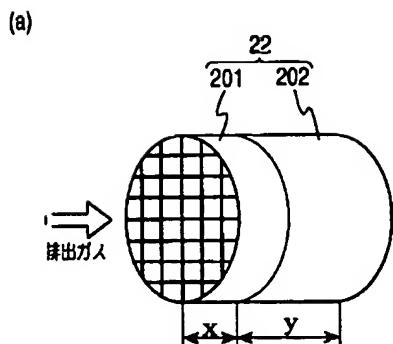
(b)



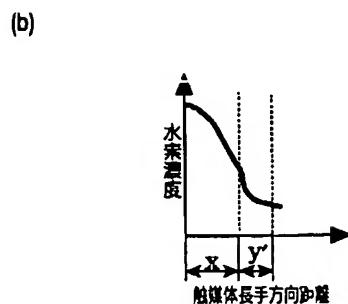
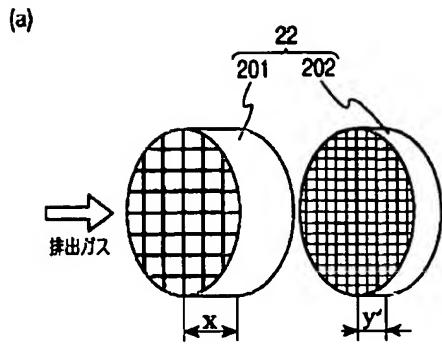
【図11】



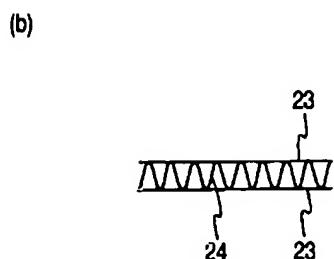
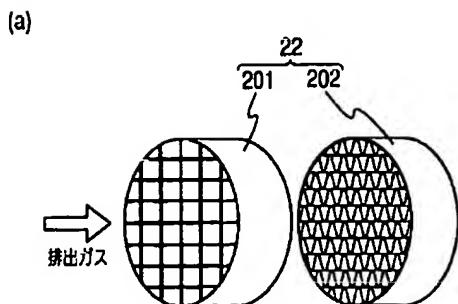
【図5】



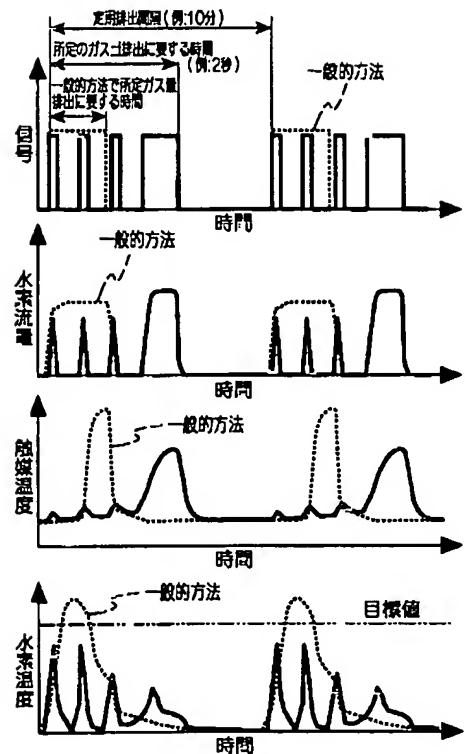
【図6】



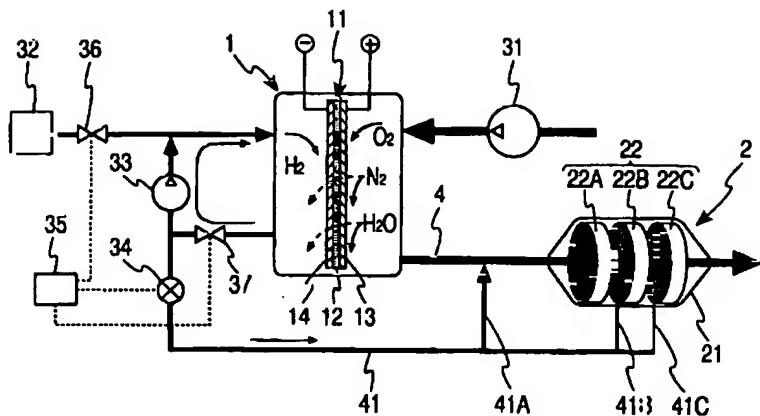
【図7】



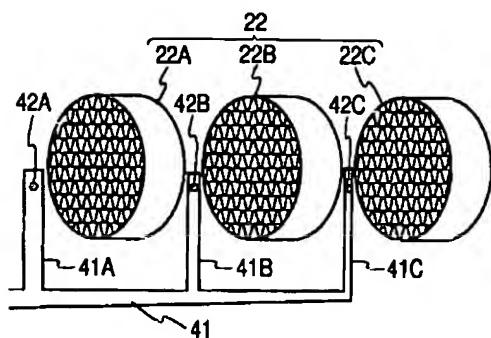
【図8】



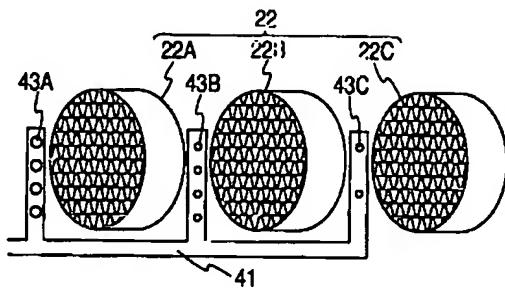
【図9】



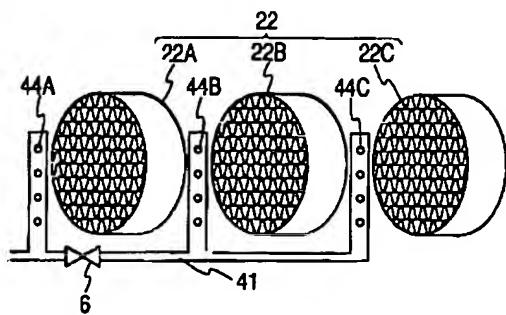
【図10】



【図12】



【図13】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7  
B 01 J 35/04  
H 01 M 8/06

識別記号  
301

F I  
B 01 J 35/04  
H 01 M 8/06  
8/10

301 B  
W

(参考)

(16) 03-142131 (P2003-142131A)

8/10

B 0 1 D 53/36

Z

F ターム(参考) 4D048 AA30 AB01 AC06 BB02 BB12  
BB15 BB16 CC21 CC32 CC38  
CC44  
4G069 AA01 CA04 CA07 CA11 DA06  
EA19 EA25  
5H026 AA06 EE02 EE11  
5H027 AA06 BA13 BA19